

BELF 参考文献の表記法 (2018年6月8日改定)

以下に述べる BELF での参考文献表記法は、原則としてすべてのジャンルに適用する。

【従来からの主な変更点】

- [1] (出版年) の後に用いられることの多かったコロン (:) を廃止して、原則的にすべてをコンマ (,) で区切る形式にする。
- [2] 雑誌論文のページ数表記は、従来「pp. 1-20」だったが、pp. を削除して数字のみとする。
- [3] 雑誌の巻号表記は、「No.23」とか「第3号」とか「VIII」とかさまざまだが、煩雑さを避けるためにすべてアラビア数字のみとする。また合併号についてはスラッシュ (/) を用いる。

以下の順序で説明する。

- 1 単著雑誌論文の場合
- 2 共著雑誌論文の場合
- 3 単行本の場合
- 4 単行本に収録された論文の場合
- 5 その他

1 単著雑誌論文の場合

欧文文献

著者の姓, 名のイニシアル. (出版年), “論文名”, 雑誌名 巻号, ページ数.

(例) Sthioul, B. (2000), “Passé simple, imparfait et sujet de conscience”, *Cahiers Chronos* 3, 23-38.

和文文献

著者姓名 (出版年) 「論文名」『雑誌名』巻号, ページ数.

(例) 榎本美香 (2003) 「会話の聞き手はいつ話し始めるか」『認知科学』10-2, 291-310.

【注】

[1] 巻号の表記は雑誌によって様々であるが, 元の表記を尊重して No. 3 とか XXII などとせず, 一律に単純に**数字のみ**で 3 とか 12 とする。number と issue まで表示があるときは, *Linguistic Inquiry* 5-3, のように, number (5) と issue (3) をハイフンで結ぶ。和文雑誌も, 「第 32 号」とか「12 巻 2 冊」とか, 雑誌によって表記がちがうが, すべて**数字のみ**とする, ただし**合併号**に限ってスラッシュを用いて *Revue de sémantique et pragmatique* 9/10 のようにする。

[2] **論文名**は**最初のみ大文字**で, あとはすべて小文字とする。

[3] **雑誌名**は原則として**最初の文字だけ大文字**, 残りは小文字にする。

(例) *Le français moderne, Langages, Revue québécoise de linguistique*

ただし, 英語・ラテン語の雑誌名は各語を大文字で始める。

(例) *Linguistics & Philosophy, The French Review, Linguisticae Investigationes*

またフランスの雑誌でも *Cahiers Chronos* のように, 最初の単語以外でも大文字を使っている場合は, それを尊重する。

2 共著雑誌論文の場合

以下, ①=第一著者, ②=第二著者とする.

欧文文献

①姓, ①名イニシアル.& ②名イニシアル. ②姓 (出版年), “論文名”, 雑誌名 巻号, ページ数

(例) Franckel, J.-J. & D. Paillard (1989), “Objet, complément, repère”, *Langages* 94, 115-127.

ただし著者が3人以上のとき, 第二著者名及びそれ以降の著者名を *et al.* で省略することができる.

和文文献

①姓名, ②姓名 (出版年) 「論文名」『雑誌名』巻号, ページ数.

(例) 奥田民雄, 川瀬正一 (1987) 「いわゆる絶対指示について」『国語学』34, 21-34.

【注】

[1] 欧文文献で著者が3人以上のとき

①姓, ①名イニシアル., ②名イニシアル. ②姓& 最終著者の名のイニシアル. 姓

(例) Heim, I., A. Kratzer & J. Pelletier (1998)

[2] & 記号を採用した理由は, フランス語文献に混じって英語文献が引用されることも多く, 共著者名を *et* や *and* で結ぶとどちらも具合が悪いからである.

3 単行本の場合

欧文文献

著者の姓, 名のイニシアル. (出版年), 書名, 出版地, 出版社.

(例) Martin, R. (1983), *Pour une logique du sens*, Paris, PUF.

和文文献

著者姓名 (出版年) 『書名』 出版社.

(例) 神尾昭雄 (1990) 『情報のなわ張り理論』 大修館書店.

【注】

[1] 共著の場合の著者名表記は, 雑誌論文の場合に準じる.

[2] 書名に副題があるときは, ピリオドを打って続けて書く. ただし副題がコロンやダッシュで導入されている場合はこれを尊重する. 副題の最初は大文字にする.

(例) Léard, J.-M. (1992), *Les gallicismes. Etude syntaxique et sémantique*, Editions Duculot.

[3] 出版地を書くのが完全な文献表記であるが, 出版社が複数の都市にあるときの表記が面倒なので, 主要地 1 つを挙げて残りは省略する. (例えば Editions Duculot の場合, Paris と Louvain-la-Neuve にある. Paris, Louvain-la-Neuve と書くか, Paris/Louvain-la-Neuve と書くか, 悩ましい. Academic Press だと, Orland, San Diego, New York, Austin, Boston, London, Sydney, Tokyo, Toronto にあり, とても書ききれない.)

[4] 英語の単行本では, 書名を構成する各語を大文字で始める習慣があるので, それに準ずる (ただし, 冠詞, 前置詞, 接続詞はすべて小文字). 次の例では *Space, Worlds, Grammar* が大文字で始まる. *and, or, with* などは小文字.

(例) Fauconnier, G. & E. Sweetser (1996), *Spaces, Worlds and Grammar*, The University of Chicago Press.

[5] 著書でなく編書の場合は, 編者名の次に (ed) または (dir) と書く.

(例) Kleiber, G. (ed) (1984), *Recherches en pragma-sémantique*, Klincksieck.

編者が複数のときは、雑誌論文の書き方に準じ、(eds) または (dir) と書く。

(例) Kleiber, G. & J.E.Tyvaert (eds) (1990), *L'anaphore et ses domaines*, Klincksieck.

和文文献の場合は、著者名の次にカッコなどに入れずに「編」と書く。

(例) 金水敏, 田窪行則編 (1992) 『指示詞』 ひつじ書房.

4 単行本に収録された論文の場合

欧文文献

著者名姓, イニシアル. (出版年), “論文名”, 編者名 (ed) [または (dir)] 書名, 出版社 ページ数.

(例) Siblot, P. (1999), “Qu’est-ce que poser un thème ?”, Cl. Guimier (ed) *La thématization dans les langues*, Peter Lang, 33-44.

Bottineau, D. (2002), “Les cognèmes de l’anglais : principes théoriques”, R. Lowe (dir) *Le système des parties du discours, Sémantique et syntaxe*, Laval, Les Presses de l’Université Laval, 423-437.

和文文献

著者姓名 (出版年) 「論文名」 編者姓名編『書名』 出版社, ページ数.

(例) 益岡隆志 (1997) 「表現の主観性」 田窪行則編『視点と言語行動』 くろしお出版, 1-10.

【注】

[1] 編者が1人のときは, Cl. Guimier (ed)のように, イニシアル. 姓の順に書く. 編者が複数
のときは, G.Kleiber, J.-E. Tyvaert (eds) のように, イニシアルはすべて頭につける.

[2] 編者が複数のときは, (ed) でなく (eds) と書く (または (dir) と書いてもよい).

[3] 同じひとつの単行本から複数の論文を引用しているときは, 参考文献表に書名をあげて,
引用論文の出典は次のように簡略に表記してもよい。

(例) Bentolila, F. (1999), “La thématization en berbère”, in Cl. Guimier (ed), 35-41.

5 その他

- [1] 出版予定の文献は (*à paraître*) と書く。日本語では (近刊) とする。
- [2] 印刷中の文献は (*sous presse*) と書く。日本語では (印刷中) とする。
- [3] よく知られた雑誌名で略号が定着しているものは、スペース節約のため略号を使ってもよい。ただし、*Language* を *Lg* としたり、*Linguistic Inquiry* を *LI* のように省略するのは避ける。

(例) *CLS, BSLP, BLS, NELLS, SALT, etc.*

- [4] 博士論文、修士論文などは次のように書く。

著者名姓, イニシアル. (出版年), 論文名, 論文の種類, 提出大学名.
--

(例) Heim, I. R. (1982), *The Semantics of Definite and Indefinite Noun Phrases*, Ph.D. thesis, University of Massachusetts.

論文の種類を表記

(アメリカの場合) : Ph.D. thesis, MA thesis, BA thesis

(フランスの場合) : Thèse de Doctorat, Mémoire de maîtrise, Mémoire de licence

- [5] 未出版文献は *ms.* と書く。
- [6] 学会などでの口頭発表は次のように書く。

(例) 奥田智樹 (2002) 「*falloir* の意味構造」日本フランス語学会第 203 回例会発表。

- [7] 雑誌の発行主体が大学の学部・研究室などでそれほど知られていない場合は、雑誌名の次にカッコに入れて発行主体を書く。

(例) 堀口和吉 (1978) 「指示語の表現性」『日本語・日本文化』8 (大阪外国語大学), 34-56.

- [8] オンライン上で入手した文献については、URL とアクセスした日付を付す。

(例) Corblin, F. (2010), "La préférence existentielle du déterminant *quelque*", L. Tovenà (ed) *Déterminants en diachronie et synchronie*, Paris, Projet ELICO, 71-85.
<http://fcorblin.free.fr/textes/prefexistentielle.pdf> (2018 年 6 月 9 日アクセス)